議事概要

会議の名称	令和３年度第２回三田市総合教育会議
開催の日時	令和３年11月12日（金）９時30分～11時00分
開催の場所	三田市役所本庁舎３Ｆ　302ＡＢ会議室
出席した委員の氏名	森哲男市長、鹿嶽昌功教育長、吉田礼子教育委員、三木尚美教育委員、 中上之仁教育委員、大野裕己教育委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 岸本子ども・未来部長、松下学校教育部長、横溝子ども未来室長、 西垣戸子育て応援室長、外岡学校教育部次長、杉山すくすく子育て課長、 松本幼児教育振興課長、久後幼児教育振興課参事、浅野教育総務課長、 上野教育総務課学校再編担当課長、山本学校教育課長、山口教育支援課長、 小山教育研修所長、廣瀬学校給食課長、田中すくすく子育て課係長、 増田幼児教育振興課係長、田村すくすく子育て課事務員
傍聴人の人数	５名
議題	（１）協議事項 ①第２期三田市立教育大綱（案）について ②三田市立幼稚園再編計画（案）の修正と今後の取り組みについて
会議の概要（結果）	議事概要参照
公開･非公開の区分	公開
使用した資料	【資料１－１】第２期三田市教育大綱（案） 【資料１－２】第２期三田市教育大綱の構成（案）について 【資料１－３】三田市教育大綱 【資料２－１】三田市立幼稚園再編計画（案）の修正と今後の取り組みについて 【資料２－２】市立幼稚園再編計画（案）に係る令和３年度実施意見交換会等の開催結果概要 【資料２－３】意見交換会での意見等概要（令和３年６月19日～27日） 【資料２－４】出張意見交換会での意見等概要（令和３年８月10日～９月15日） ※募集期間は９月30日まで。 【資料２－５】三田市立幼稚園再編計画（案）意見交換会（令和３年６月実施分）意見等及び回答等一覧

	【資料２－６】三田市立幼稚園再編計画（案）出張意見交換会概要 【資料２－７】再編計画（案）の修正の方針等 【資料２－８】三田市立幼稚園再編計画（案） 【資料２－９】三田市立幼稚園再編計画（案）に係る参考資料
連絡先	子ども・未来部　子ども未来室　すくすく子育て課　　電話（079）559－5079

１．開会

【横溝室長の司会により開会、配付資料の確認等】

【三田市総合教育会議の運営等に関する規定第４条第５項に基づき議事進行を森市長に交代】

【市長挨拶】

２．議事

（１）協議事項

①第２期三田市立教育大綱（案）について

〈横溝室長から説明〉

森市長：事務局より説明がありましたが、ご質問やご意見をお聞かせ願いたいと思います。基本方針として、非常に変化が激しい時代を生きている子どもの育成のための、主体性と可能性を広げる教育について取り上げています。それに併せまして、まだ大綱の案でございますが、そういう変化の激しい時代を生き抜く教育、あるいは主体性や可能性を広げる教育、これらの取り組みが十分盛り込まれているかというところについてご意見をいただきたいと思います。

吉田教育委員：特に基本方針５のところに「赤心社」のように具体的に引用してあったのは予想もつきませんでした。前の大綱ではそういうものがなかったので、ちょっと物足りないなと思っていたところです。今回の大綱では変化の激しいこの世の中で、子どもたちの主体性と可能性を開いていくということが端的に表れていて、また、個々の取り組みも入っており、学校教育の大切な子どもの芯を育てるといったこと、そして、コミュニティ・スクールの充実、これはいろんな意味では学校が変わる大きな核になる事業だと思っています。そういった意味で、これがきちんと位置づけられて、三田らしさがだいぶん出てきたなと、胸弾む思いがいたしました。そういうバランスと、特色のある計画骨子ではないかと感じています。

大野教育委員：重なる部分が多いのですが、一定のバランスということで、子どもの主体性から可能性を開いていくというところと、先ほど吉田委員も言われた、基盤としてのコミュニティ・スクールは、家庭・地域とのつながりもよく考えられていると感じたところです。読んでいて感じたことは、チーム学校「チームとしての学校」という考え方についてですが、これがコミュニティ・スクールと包摂されたり両輪であったりであることが求められています。具体的には専門スタッフであるスクールソーシャルワーカーさんや

スクールカウンセラーさん、そういった方も活用しながら、学校での子どもの課題を解決するところは、この表のどのあたりに位置づけられてくるのかというところが気になりました。基本方針１の一人一人を大切にするという中に取り出される方法もあると思いますし、学校現場の働き方改革ということも言えると思います。また両方に関わってくる可能性もあると思うのですが、そのように具体的に入れ込むことで子どもの環境を整える意図を市としてアピールできることになるので、その辺りを詰めていかれるとよいかなといった印象を持ちました。

山本課長：今ご指摘いただきましたように、特にコミュニティ・スクールを推進していくにあたりましては、多様な学校あるいは地域の方々と協働して進めていく必要があります。この中で今おっしゃられたようなスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、福祉や市民の専門家が学校と地域を橋渡しするような場というのは、非常に増えてくるかと思います。そういった意味では、基本方針１の、誰一人として取り残さない、そういった学習環境には、学校教育の支援というところと、基本方針４と両方の側面から入れ込むことになると思うのですが、コミュニティ・スクールが目指す育てたい子ども像や学校の形というものを見える化していくものですので、基本方針４の中で専門スタッフも大いに活用しながら協働を進めていきたいと思っています。

三木教育委員：基本方針１の「誰一人として取り残さない学びと育ちの支援」の(3)「一人一人を大切にする教育の推進」ということで、障害のある子どもたちへの理解、多様性を理解するということが大切になってくる時代だと思うのですが、障害という考え方も変わってきていまして、医学モデルとしてその本人の持っている障害だけでなく、障害を社会モデルとして考えていくということがこれからは必要だと思います。本人の力をつけていく自立支援ということももちろん大事なのですが、周りの理解ということも同時に必要になっていく時代だと思います。誰一人取り残さないということで、スクールソーシャルワーカーさんなど周りの人たちの力を借りたり、つながりによって、障害が軽くなる、障害がなくなるという考え方も必要かと思います。

外岡次長：三木委員がおっしゃったように、障害への理解については学校でも現在取り組みを進めているところですが、市では人権を尊重し多様性を認め合う共生社会を目指す条例を策定作業中でございます。その中で共生社会づくりにむけて、学校における教育・啓発といった部分は力を入れて取り組みを進めようと考えているところであり、「周りの理解」という点で、障害への理解が進むよう、学校でも力を入れて取り組んでまいります。また、学校に限らず市全体の中でも共生の理念を取り入れ、誰もが住みやすい社会づくりに取り組んでまいります。

中上教育委員：やはり誰もが同じ学びの環境をつくっていくことが一番大事であり、それとともに個性を生かした教育をしていかなければならないと思います。例えば歌が好きだとかスポーツが得意だとか、そういった個性も伸ばしながら教育をしていくと一番よいかと思っています。

横溝室長：個性を伸ばすということで、こうみん未来塾の中にもそのような視点を取り入れて実施したいと考えておりますので、反映させていただきます。

鹿嶽教育長：骨子を見せていただいて、これからの子どもたちや、市民のみなさんの生涯学習の環境など、教育の環境を整えていく上で網羅されていると考えています。

教育の分野でも第３期教育振興基本計画が策定の最終段階に入っており、令和４年度から５年間の計画ということで、審議していただきました。その教育振興基本計画の基本理念を、教育大綱と同じく『夢を育て、人を育む学びのまち　三田』とさせていただいたのですが、策定委員会の方から、「教育の基本計画なのにまちづくりの理念のように見える」という声がありました。教育振興の基本計画ですので、子どもたち自身がこれから豊かな生活を送っていく中で、変化の激しい社会にも柔軟に対応できるよう、就学前から小中学校を中心とした教育をどのようにするかということが本来の趣旨です。世界に羽ばたいて活躍してくれる子どもたちが育つことが望むところです。将来の日本や、この三田市を支えてくれる子どもたちを育てることが非常に大切であって、教育もまちづくりにつながるものであるという思いで第３期教育振興基本計画を策定させていただきました。この教育振興基本計画では、特に学校教育については、子どもたちを地域や家庭の皆さんに支援いただきながら育てていくということが主になっています。教育大綱については、それ以外の生涯学習のように、学校を卒業した後も豊かな人生を送るために、教育としてどのようなことを市として行うのかという大綱ですので、教育振興基本計画以上にまちづくりを意識したような大綱であるべきだと思っています。

資料１－１の２ページにあります、趣旨から基本理念まで書かれている部分ですが、１期と同じ構成になっていて、趣旨や位置づけ、推進期間、基本理念のくだりが、さらっと述べられています。三田市で学んだ子どもたちが卒業して、大学や就職のため三田市から出て行ったとしても、私はその出て行った子どもたちに、終の住まいは三田市を求めてほしいという思いが非常に強くあります。ですから、市長が定められる大綱ですので、よりまちづくりといった思いを書き込んでほしいという思いがあります。最初の前段をすらっと書くのではなく、この大綱が意図するところを少し分厚く前段で書いていただいて、それを実現するための方針として１から５までがあるといった構成であればよいかと思います。

横溝室長：そうしましたら、教育委員会とも調整して、この第２期教育大綱にまちづくりの思い

を伝えるような文章を載せさせていただきます。

森市長：各委員からそれぞれご意見をいただきました。この教育大綱の骨子を基に内容を決めていくということでよろしいでしょうか。今日お伺いしたご意見につきましては、今後教育大綱（案）で内容を固めていくように、事務局はしっかりと対応をお願いしたいと思います。

②三田市立幼稚園再編計画（案）の修正と今後の取り組みについて

〈西垣戸室長から説明〉

森市長：事務局から説明がありましたが、最初は出張意見交換会についての報告で、疑問点や質問など再編に対するご意見を頂戴しました。２点目は本計画の目的や考え方を明確にし、それを踏まえて３点目としましては、今回の再編計画（案）の修正の方向を示していただきました。最後には今後の進め方ということで、大きく４つに分かれた説明でありました。資料が多岐にわたっていますので分かりにくい点もあるかと思いますが、今の４点を中心にご意見ご質問をいただければと思います。

中上教育委員：私は農村部に住んでいます。確かに地域に学校、幼稚園がなくなると寂しくなります。近くに幼稚園があると、子どもたちが道路を歩いて行っている姿をがんばっているなと思って見ているのですが、統廃合するとそういう姿を見ることがなくなります。ただ、今私の住んでいる地域において幼稚園に行っている子は１人もいません。この12ページにあるように、幼稚園がなくなると地域が廃れるというのもそのように思うところです。何もしなければ、このままでいくとさらに地域が活性化できなくなるのかなと思います。今集落にも空き家が出てきており、何かしないといけないとは思うのです。少しでも切磋琢磨できるような環境や、幼稚園で運動会でも多くの子どもたちが走る姿を見ることができるというのは、やはり大事なことだと思うので、望ましい集団規模が15から30人というのは妥当かと考えています。丁寧に説明し、地域の人と活性化できるような施策を考えながら、また、空き施設についても、地域にプラスになるような形を地元に丁寧に説明して進めていけばよいかと思います。

西垣戸室長：再編計画自体も大切ですが、その後をどうするのかというのが大事だと思っています。再編計画によって、子どもたちの学びの環境であるとか育ちの環境というのは整いますが、地域の活性化も併せて行わなければ、地域の皆さんにとっても不安が募るばかりという側面もあると思います。こういったことにつきましては、市としても体制をし

っかり整えて地域の皆さんと丁寧にお話をしながら、１つでも前に進めていきたいと考えていますので、これからも引き続きよろしくお願いします。

吉田教育委員：とてもたくさんいろんな意見がある中で、一つ一つを非常に大切に受け止められて、進めていかれているなということを強く感じました。この計画は改善しながら見えてきたものもあって、理解も得られやすくなるのだと思うのですが、例えば意見の中で幼児期だと１人でも十分育つではないかと、安全・安心であれば十分で、幼稚園の頃のことなんて覚えてないという意見も出ていました。そういう意見を見ると、具体的な子どもの育ちの場面というのがイメージできていないのではないかと思ったものもありました。例えば「村を育てる学力」を書いた東井義雄さんという但馬出身の教育者がいらっしゃるのですが、この方の著書を読んでみると、狭い人間関係の中で育った子どもたちの問題点として挙げていらっしゃるのは、人の目を気にするというところ、機嫌を伺う態度を見せることがあると言われているところです。それが非常に気になるので、例えば教師が子ども役になって、質問をしたりして子どもの思考力を高めようとしても、子ども同士で切磋琢磨していくのとは全く違って、どうしても教師が期待する答えを探そうとするという姿が見られてしまう。子どもたちは大勢の人の中でいろんな考えをすり合わせながら成長する。子どもの持ち得るものを力いっぱい出す中ですり合わせができていって、成長が大きく確かになると思うのです。喧嘩をして我慢する力や折り合いをつける力は、多くの人の中で体験するということがとても大事になってくるというような具体的な子どもの姿を説明すると、もう少し分かっていただけるのではないかと思います。「集団の良さ」とか「社会性を育てる」とか概念的な言葉で回答していくと、なかなか理解しにくい。思うようにならないことにも精いっぱい立ち向かって折り合いをつけていくような体験というのは、大きな集団の中でしか体験ができないので、そのようなことを少し具体的にイメージしてもらったらよいかと、この意見交換会の内容を見て思いました。そうすれば、だんだんと理解していっていただけるのではないかなと思います。子どもを育てる観点から、やはり集団の中で育てるということが必要になってくるので、根気強く意見を聴きながら進めていただけたらうれしく思います。

久後参事：大変貴重なご意見ありがとうございます。今おっしゃったように、幼児期の子どもの育ちというのはなかなか見えにくいところがあります。内面的な育ちのようなものは数値化できないため、言葉だけで説明すると伝わりにくいと感じています。各幼稚園でも子どもの姿を写真に撮ってドキュメンテーションという形で、子どもの内面的な育ちについて写真を交えて見える化して発信するといった取り組みをしています。こういったものを活用して、保護者や地域の方に説明をしたり、また、オープンスクール等を通じて幼稚園の子どもたちの実際の姿を見ていただきながら、このようなところが育っているという説明を加えるということも今後積極的に取り組んでいきたいと思っています。

三木教育委員：私はニュータウンに住んでいますので、農村地域の方々のお声を直接お聞きするような機会がほとんどないのですが、今回たくさんの資料を見せていただいて、地域の方々との話し合いをしっかりされて、農村地域の方々の思い、公立の幼稚園を地域の方々が園と一体になって、本当に温かい愛情をもって見守ってこられているということがとても伝わってきました。そのような背景があるからこそ、なくなることや変わっていくということに対して、不安や疑問がたくさん湧いてこられているのかなと思いました。園を続けてこられた事務局や現場の先生方のご努力があり、それが本当にすばらしいものだからこそ、地域の方々の不安があるのだということが分かりました。地域の方々も先の明るい見通しを示してほしいという思いがおありだと思いますので、今回不安や疑問を出される機会をつくられて、市長部局の皆様がしっかり受け止められて寄り添って話し合いをされたことで、課題として出てきたことを検討されたということはありがたいことだと思いました。見える化してくださって、不安を解消し、安心材料を盛り込んでくださることによって、先を明るく見通せるということが、地域の方々や園を利用される方々にとって、優しい配慮になっていると思いました。私が気になったのは、支援の必要な子どもさんがもし入られた場合の対応はどうなのかというところですが、私立の幼稚園も園によっては積極的に支援の必要な子どもさんを受け入れていらっしゃる園もありますが、まだまだどこの園も安心して預けられるという状況ではない現状があると思っています。私立は個性を大事にされていますので、逆にそれに合わない子どもさんも出てくると思っています。そんな方にとっては、公立を望まれると思いますので、配慮のある対応をお願いしたいと思います。また、対応できる先生も集約されることによって人数も増えていくとは思いますが、障害について理解をしてくださっている先生方に見ていただきたいので、ご協力をお願いしたいと思います。それによって安心して預けられる体制づくりができると思います。また、声が届けられていない方、発信力の弱い方もいらっしゃると思います。そんな方々の声も届きやすいような方法、配慮や工夫をされて聞き出していただけるようなこともお願いしたいと思います。そうされることで、より皆さんからの信頼も高まっていくのではないかなと思います。よろしくお願いします。

松本課長：今ご意見をいただきました、配慮の必要なお子さまへの対応についてですが、意見交換会の中でも人数が多くなるというところでご不安の声等も頂戴しています。研修の機会も充実させていきたいと思っていますし、今現在も配慮の必要なお子さんについて、加配の教員の配置等もしています。こういったことは引き続き認定こども園になりましても、継続して取り組んでいきたいと思っています。また、発信力の弱い方への配慮をというご意見もございましたが、いろんなお声を聞きながら進めていきたいと考えています。

大野教育委員：重複するかもしれませんが、少し考えたことを申し上げさせていただきたいと思います。特に意見交換会では、お見えになった方ということにはなると思いますが、大切な意見としてのご不安とかご要望ということが出されたと思いますし、それを受けてこの再編計画（案）の修正は、そこに寄り添い近づいていっていると思います。意見や回答等を読んでいて、市としても地域の方々としても、解決したい意思は同じではあるけれども、一方では、吉田委員が指摘されたように、望まれる学びや教育に関しては、ご意見いただいた地域の方々と市の思いは若干非対称になっているかなというところが少し気になりました。新しい社会をつくる子どもの芽生えを保障するということで、どういう学びや教育が必要かというところは、できるだけ両者の思いが一致するところを目指していただきたいと思います。これまでも学校園や保護者、地域に寄り添ってこられたとは思うのですが、幼稚園の再編後には、預けられる保護者、あるいは教員や園、小学校が求められる教育観や学習観を、いかに同じくしていくかというような仕組みを平素からつくっていくことが大事だと思います。そういう部分を、再編計画（案）の中でも検討されたり、示されてもよいのかなと思いました。

久後参事：中学校区間で保幼小中の連携はこれまでも取り組んできています。今後も連携をしっかりと取りながら、子どもの育ちを一貫した１つの柱をもって、幼稚園等就学前で育てたい力を明確にしながら、小学校のほうへつないでいくということを丁寧にしていきたいと考えています。

鹿嶽教育長：今回の計画（案）の見直しですけども、本当に様々なご意見をお聞きしながら、それに対して丁寧に対応されている、見直されているのだと思っています。確かに分かりにくい部分は指摘を受けて、分かりやすくなっているかと思っています。私も見て思ったのが、資料の11ページの最後にあるところですが、認定こども園を設置することで、その地域の他の施策、事業、取り組みと連携することによって、相乗効果が生まれてくる。若い世代や子育て世代の方々にとっても、認定こども園プラス他の施策をどうするかによって、地域自身も活性化すると思うので、認定こども園がゴールではなくて、その認定こども園を活用しながら、どういう施策を展開するかが非常に重要なのかなと思います。また、私もよく耳にするのは、今回再編対象となっている幼稚園については、全て同一の敷地か、その敷地の前に小学校が配置されていて、この幼稚園と小学校の連携をどうするのかという話です。幼稚園が小規模化していると同時に、小学校も小規模化している状況で、今後小学校、また中学校についても、やはり再編ということは検討していかなければならなくなります。私自身の子どもも、再編対象となる幼稚園の校区にある小学校に通っており、当時は同級生50人ほどいましたが、そのうち幼稚園から上がってこなかったのは、私の子どもを含めて２名だけで、ほぼその地域にある幼稚園と

小学校は一体に連携していた状況でした。資料で言えば23ページで二十数年前の話です。ほとんどが幼稚園から小学校に上がっている。今現在は幼稚園の子どもたちが非常に少なくなっているとともに、子育ての状況が大きく変わっている。地域にいる子どものうち半数が保育所や認定こども園に行っているということで、地域の幼稚園と小学校が１対１になっていない。ニュータウンの小学校もですが、様々な就学前施設から小学校にあがっていくので、小学校側は各施設と連携を取っておられます。そんな中で、認定こども園化されることによって集約されていくと、特に志手原、小野、母子、高平を含む三田市の東側の認定こども園については、今年の５歳児だけで見ても、全員集めても22人です。認定こども園の定員全員当てはまっていくわけです。そうなれば、小学校側として、この認定こども園と１対１で連携ができるということで、子どもの状況であったり、保護者の皆さんの考え方であったり、連携が本当にしやすくなるというメリットがあります。ただ、市街地の学校は今もなお小学校１に対して就学前施設が複数あるので、難しい部分もありますけども、今回のこの再編によって、そういった小学校区との連携というのが非常にやりやすくなるという利点もある。そのことは子どもたち自身が就学前から小学校になじむこと、保護者同士の関係も全く知らない保護者よりも、よく知っている保護者同士がそのまま小学校に上がれるということは、大きな利点がある。そのことも含めると、保護者にとっても、園児にとっても、非常にストレスの少ない格好で小学校とつながれるのではないかという意味で、ご理解いただける要素があると思っています。

森市長：ありがとうございます。それでは、今日説明がありましたこと、いただいた意見も踏まえて修正をした上で、パブリックコメントを進めていただきたいと思います。また予定としましては、２月の総合教育会議に最終の検討をさせていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

横溝室長：以上で、本日予定していました議題は全て終了となります。長時間にわたり熱心に御議論いただき、誠にありがとうございました。次回、来年２月頃の予定ですので、またご案内をさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。